

前身の「春日セーム工業」から数えて65年経つ、鹿革製品を中心とする毛皮革製造業の株式会社「春日」は、平成元(1989)年に菟田野毛皮工業団地内に工場を建設して法人化した。古来から伝わる技術・処方をもとに独自で武具、漆革(印伝)などを開発してきた辻本俊治社長(81)、辻本豊仁専務(59)親子は、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、次の展開へと身を乗り出した。中国東部などに生息する小型鹿(キョン)の皮の細かさに注目し、最高級の鹿皮・キョンセームフィルターを使用した新型「i-deer」マスクが好評。もう一つは防虫効果や脳活性改善が認められた和鹿の燻(いぶし)革のストラップ「香瑩(シャンイン)」だ。「大和高原宇陀ブランド」のヒット商品となり、産業振興に一石を投じることができるか注目される。

# Made in 奈良

宇陀市 株式会社 春日



株式会社春日代表取締役専務 辻本豊仁さん

## 新型コロナ対策と産業復興の切り札として 2商品がけん引

「初期型マスクは、研究者向けに開発した4本のワイヤーを使用していて、一般の方が装着するには少々困難がありました」と話す辻本専務。今年3月の新型コロナウイルスの感染拡大でマスク不足が深刻化したことで、開発は次の段階へ。

そのきっかけは、クラスター(感染集団)が確認された済生会有田病院(和歌山県湯浅町)に、初期の鹿革マスクを1000枚寄贈したこと。すると、ほかの病院や一般市民から要望が相次ぎ販売したところ、1カ月も経たないうちに2万枚が完売した。

高評価を受けたことから、同社は高齢者や子供が装着し易くするため、初期マスクのワイヤーを外した商品開発に取りかかり、7

飲み水による伝染病が流行った時、キョン皮のろ過能力を使い、伝染病を鎮めたという伝承が残る。「それでひょっとして、わが社が扱っている鹿皮がウイルスを除去できるのではないかと辻本専務が直感。それを実証したのが初期の「i-deer」マスクだった。

これは、平成21(2009)年に鳥インフルエンザが流行した折、特殊ナメシを完成させ、キョンセームをマスクフィルターとして活用。東京大学農学部、北里大学に調査を依頼したところ、浮遊するウイルスの97・8%をカットすることが分かった。

「初期型マスクは、研究者向けに開発した4本のワイヤーを使用していて、一般の方が装着するには少々困難がありました」と話す辻本専務。今年3月の新型コロナウイルスの感染拡大でマスク不足が深刻化したことで、開発は次の段階へ。



キョンセームフィルターを使用した新型「i-deer」マスク

月の半ばに完成させた。テストして、第2弾として9月から一般向けに同社のホームページで販売した。同時に産業復興事業として、大阪繊維縫製業界や京都きもの業界に共同開発を打診したところ、大阪から「株式会社タツチ」、京都から「株式会社樹幸」の協力を取り付けた。

辻本専務は「近畿3県で4つの市立病院から『すごい性能だ』と言われたのですが、『誰が洗うんだ』というところが問題になりました。わが社で定款を変えてでも、リース事業を展開していかなければならないのでは」と笑顔をこぼす。

大腸菌ファージという最小のウイルスを手に入れるのに多額の金額がかかるが、北里環境化学センターの3回に及ぶ試験から、キョンセームで遮へい率97・8%の結果が出た。研究費や様々なコストを考え、新型マスクの希望小売価格は

## キョンセームフィルター使用の新型マスク 防虫・脳活性効果の和鹿の燻革ストラップ

燻革は防臭・防虫効果のほかアロマ効果もあり、バッグ、靴箱の靴やブーツ、家庭の各部屋、自動車、ベッドなどへの用途がある。辻本専務は「営業の方でも、



燻革のストラップ「香瑩(シャンイン)」

「木(いなほ)」「日(ひ)がたった」のが『香』(かおる)という漢字」と自論を説く辻本専務は、燻革のストラップ名を、「香瑩(シャンイン)」と決めたほどのこだわりようだ。

燻革は防臭・防虫効果のほかアロマ効果もあり、バッグ、靴箱の靴やブーツ、家庭の各部屋、自動車、ベッドなどへの用途がある。辻本専務は「営業の方でも、

1枚3600円(税別)。色はグレー、ベージュ、ネイビーの3色。アトマイザー(アルコール噴霧器)と殺菌袋付き。

一方で「和鹿で実際に流通できる商品づくりができれば、日本伝統の皮工芸の頂点にたどり着く」と考える辻本専務。そこで登場したのが、鹿の燻革のストラップ商品の開発、販売。「ワラの煙でスモークすると、独特の匂いで虫を寄せ付けません。脳の活性率が高まります」と、こちらの商品にも目を配る。

「歴史的にみて、この匂いは集中力を増したり、脳活性的なことで一番使われているのです。アルツハイマーにも効くということですから、これ(シャンイン)を販売前、脳活性の事実を確かめるため、高齢者施設の高齢者に内職代わりに組み立ててもらっています。実際に内職工賃をお支払いしています」と辻本専務。

「この匂いをお年寄りに届けたい。届けて、この匂いを嗅いだ時とどのような違いがあるか。この商品が広く出回ることにより、日本のアイデンティティー『素材理解の重要性』に目を向けてもらえれば幸いです。景気を取り戻すためにも、産地色を強く出していきたいです」と意欲を見せる。

クリスマスチャンディオールのバッグのチャームに採用されることも決まっていますし、結構いいところまでいって来ています」と鼻高々。

とくに、アロマ効果は鷹匠の燻革ユガケが、猛きんを制限するプリンカー(馬が驚いて事故が起こらないようにするモノ)に使われていることから分かる。



○創業=昭和30(1955)年  
○代表取締役=辻本俊治  
○従業員数=22人  
○資本金=1,000万円  
○事業内容=毛皮原皮直輸入、毛皮製品製造販売、革製品製造販売、武道具用鹿皮・ゴルフ用手袋・セーム皮などの製造販売、毛皮・革製品のリフォームおよび保管  
○住所=本社:宇陀市菟田野岩崎425-1 工場:同古市場1596-9の県毛皮革工場団地内  
○電話番号=0745(84)2754  
○ファクス=0745(84)2580



<https://www.kasuga-fur.jp>

同社の取り組みに宇陀市も呼応。ふるさと納税制度の返礼品として利用を提案し、近く提供を始める。金剛一智市長は、菟田野の毛皮革産業を含めた「大和高原宇陀ブランド」のネーミングで、とくに東京や大阪へのトップセールスに行くタイミングをはかっているところだ。

「全人口に対しては見えないような市場を相手にしています。だから、こういうものを出していけば、スポーツ分野や女性のバッグ、神社仏閣のお守りみたいなものにもできますし、ペット業界にも入っていきけると思います。ペットのノミ、ダニ対策ですね。産地としても今後、こういう取り組みをしなければなりません」と辻本専務の声が弾む。